

いちご新品種「ぴかいちご」の産地へ の導入と生産拡大

手引き

鹿児島県

目 次

I 新品種・新技術の概要

- 1 新品種・新技術の特性等
- 2 取り組む理由（産地の現状）
- 3 導入することで見込まれる成果

II 実施体制について

- 1 関係機関等の役割
- 2 体制フロー図

III 導入までの流れ

- 1 1年目の取組
- 2 2年目の取組

IV 導入に向けた取組内容

- 1 実証試験について
 - (1) 実証に向けた検討会
 - (2) 実証内容及び結果
 - (3) 農家へ情報共有
(マニュアル配布や講習会、現地検討会など)
- 2 先進地調査について
 - (1) 害虫防除対策としてIPM技術の情報収集
 - (2) 佐賀県農業試験場への情報収集
 - (3) 先進地技術情報の共有（資料配布や講習会など）
- 3 実需者ニーズ調査及び市場調査について
 - (1) 鹿児島市場関係者との意見交換会及び販路検討会
 - (2) 株式会社新宿高野との意見交換会
 - (3) 実需者ニーズや評価・課題等の共有（検討会）

V 新品種・新技術の導入状況

VI その他留意事項

I 新品種・新技術の概要

1 新品種・新技術の特性等

品目名：いちご

品種名：鹿児島6号（愛称「ぴかいちご」）

- 特性等：① 「かおり野」を母親，「紅ほっぺ」を父親として交配
② 「さがほのか」と比べて葉柄長と葉身長果梗枝は長く，草勢が強い。
③ 「さがほのか」と比べて栽培期間を通じて糖度が高く，果実の色は肩部分まで赤く，色むらのない完全着色タイプ
④ 輸送性については，やや劣る。
⑤ 電照処理，ジベレリン処理は不要



2 取り組む理由（産地の現状）

日置地域では，50年以上のいちご生産の歴史があるものの，さらなるブランド化推進のため，従来品種に加え，県育成品種の導入により，実需者のニーズに応えていくことが求められている。このため，県が育成した品種名「鹿児島6号」（愛称「ぴかいちご」）の普及拡大を図り，地元市場や直売所，観光農園など，地域に根ざした産地育成をすすめ，農家所得の向上を図る。

3 導入することで見込まれる成果

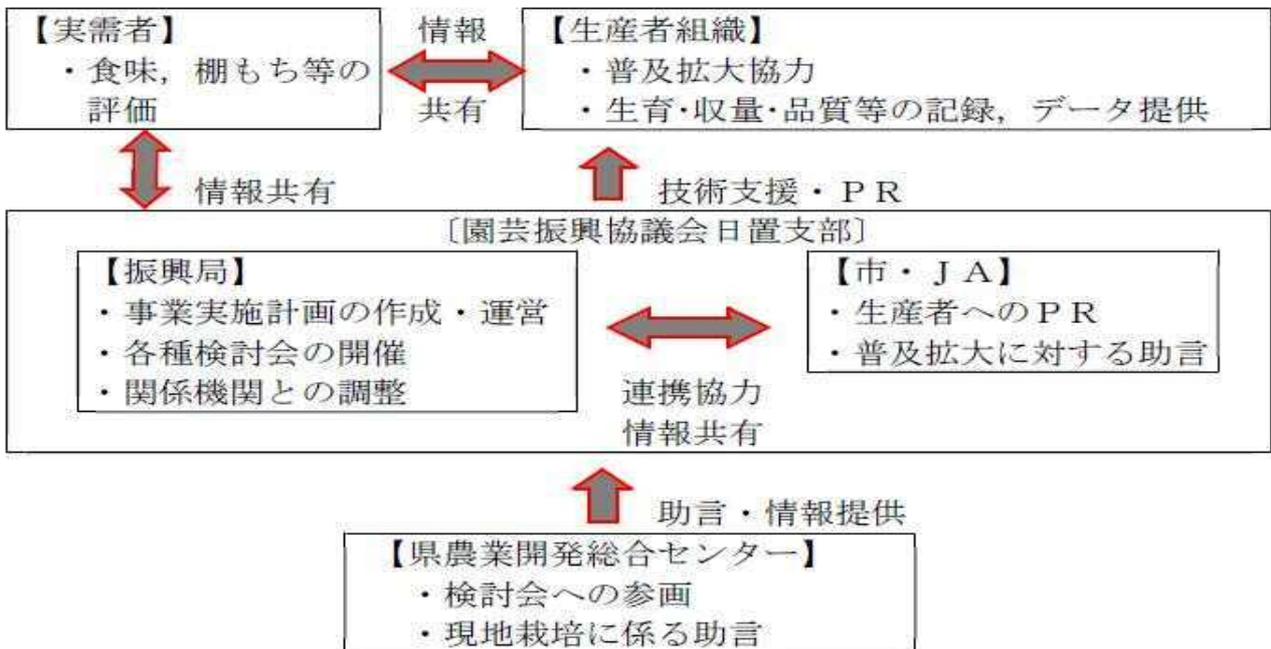
産地や市場のニーズを反映した「鹿児島6号」の生産技術を確立し，産地に導入することで，生産者の経営安定，所得の向上が図られる。

Ⅱ 実施体制について

1 関係機関等の役割

実施機関：鹿児島地域振興局農政普及課日置市駐在
(取りまとめ機関。関係者間の連携構築・調整，生産指導等を実施)
いちご生産者
(農産物を生産。関係者や市場等へ農産物の特徴・品質等の情報を提供)
園芸振興協議会日置支部
(指導体制を構築し，生産者への普及拡大の展開や周知方法等について検討し，産地の取組について広く紹介)
農業開発総合センター
(園芸振興協議会日置支部を通じて栽培技術に関する助言及び情報提供)
実需者（食味や棚持ち等の品質評価の情報を共有）

2 体制フロー図



Ⅲ 導入までの流れ

1 1年目の取組

- 新品種「鹿児島6号」は7戸の生産者で出荷が開始、13戸の生産者が、親苗を発注し、産地への導入が進む
- 栽培技術現地検討会を開催し、品種特性等を周知
- 傷みの少ない輸送容器による試験販売を実施→一定の評価
- 市場関係者や実需者による食味調査により、品質の評価を把握



出荷対策検討会



輸送容器を変更した輸送試験

2 2年目の取組

- 「鹿児島6号」は15戸の生産者で28.8aで作付けされ、17戸の生産者が親株を発注し、産地への導入が進む。
- 現地検討会等を開催し、品種特性等を周知
- 宙つり型包装資材による果実品質の安定化
- 実需者（鹿児島市場、（株）新宿高野）への食味調査や意見交換を通じた品質の評価を把握



現地検討会



実需者による品質評価

IV 導入に向けた取組内容

1 実証試験について

(1) 実証に向けた検討会について

園芸振興協議会日置支部は、県園芸振興協議会と連携し、実証に向けた検討会を実施した。

- ・調査項目作成 (R1.7.22)
- ・「鹿児島6号」の生産販売実績の検討 (R.1.8.20)
- ・種苗供給体制、栽培の現状、課題、対策等の検討 (R.2.2.17)



栽培管理検討

(2) 実証内容

【品種の特性把握】

日置市の栽培農家4戸を選定し、以下の調査項目を調査

- ・生育状況（定植1か月の葉柄長、葉長、草丈、栽培途中（2月）の葉長、草丈、芽数等）
- ・開花状況（1番花の開花期、開花数、2番花の開花期等）
- ・年内・5月まで収量

(3) 実証結果

「鹿児島6号」の生育はさがほのかに比べ旺盛

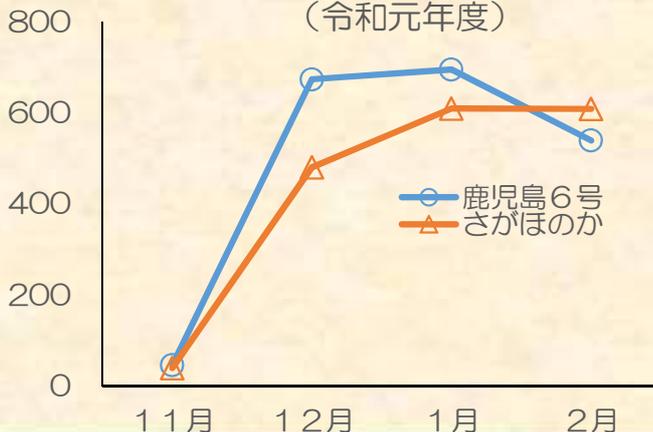
	調査月日：令和1年10月21日			調査月日：令和2年2月6日		
	葉柄長 (cm)	葉長 (展開3枚目) (cm)	草丈 (cm)	葉長 (cm)	草丈 (cm)	芽数 (本/株)
鹿児島6号	10.5	11.9	22.0	33.5	35.8	3.0
さがほのか	7.8	10.7	18.0	24.1	29.6	2.7

「鹿児島6号」の開花期はさがほのか並

	1番果(頂果)		2番花(頂果)	
	開花期 (月/日)	開花数 (個/株)	開花期 (月/日)	開花数 (個/株)
鹿児島6号	10/27	5.0	11/11	
さがほのか	10/28	4.0	11/11	

「鹿児島6号」は年内～年明けの収量はさがほのかと同程度かやや多い。

(kg/10a) 鹿児島6号の月別単収の推移
(令和元年度)



鹿児島6号単収の推移 (平成30年度)



IV 導入に向けた取組内容

(4) 農家への情報提供(マニュアル配布や講習会, 現地検討会など)

- 定植前の現地検討会で生育初期から中期の栽培管理について指導



育苗管理検討



ハウス環境制御検討

2 先進地調査について

(1) 害虫防除対策としてIPM技術の情報収集

- 栃木県では、ハダニ類の対策として、炭酸ガス処理による苗消毒後に定植を実施し、本舗では天敵を放飼している。
- 千葉県では、ハダニ類の対策として。育苗期にミヤコカブリダニを放飼し、本舗ではミヤコカブリダニと合わせチリカブリダニを放飼している。
また、アザミウマ類の対策として、リモニカスカブリダニの放飼と選択制薬剤を組み合わせた防除を実施している。

(2) 佐賀県農業試験場への情報収集

- 佐賀県では、いちごやきゅうり、トマト等で炭酸ガスの利用が進んでいる。
- いちごの単収向上対策として、総合環境制御技術確立に取り組んでいる。
- 炭酸ガス濃度800ppmまでは光合成速度は直線的に増加し、400ppmの1.6倍に達した。
- 炭酸ガス濃度800ppmで栽培した“さがほのか”は400ppmと比較し、商品化収量が約25%増加した。
- かん水は排液率が20~30%になるように調整し、日射比例でかん水を実施(4~5回/日 日射量2MJ/m²)。
- 日の出30分後から日射積算を開始し、かん水は日の入り2~3時間前に終了。

Ⅳ 導入に向けた取組内容

3 実需者ニーズ調査及び市場調査について

(1) 鹿児島市場関係者との意見交換会及び販路検討会

- 鹿児島市卸売市場関係者とJAさつま日置担当者を交え、「鹿児島6号」の果実特性や平成30年度実績（出荷量，時期等）等の検討
- 令和1年産出荷計画や，包装資材，県内の販売先等について意見交換



包装資材検討



出荷計画検討

(2) 株式会社新宿高野との意見交換会

- （株）新宿高野の仕入担当者と、「鹿児島6号」の果実特性等を紹介し，出荷時期や出荷方法等について意見交換
- （株）新宿高野の販売企画・広報担当者と，進物用や菓子加工用途向けの出荷方法等について意見交換



出荷方法検討



食味検討

(3) 実需者ニーズや評価・課題等の共有（検討会，交流会）

- 鹿児島市卸売市場関係者や（株）新宿高野との意見交換会で出された「鹿児島6号」の品質や出荷方法に関する等意見や情報等について，日置市いちご部会役員会で，生産者へ情報提供し，栽培管理等へ活用



日置市いちご部会役員会での品種特性紹介

V 新品種・新技術の導入状況

鹿児島6号の導入状況

- (1年目)
 - 新品種「鹿児島6号」は7戸の生産者で出荷が開始、13戸の生産者が、親苗を発注し、産地への導入が進む。
- (2年目)
 - 「鹿児島6号」は良食味や大玉果（1～2月）等が市場や消費者から一定の評価を受けており、15戸の生産者で28.8aで作付けされ、17戸の生産者が親株を発注するなど、栽培面積が増加している。

VI その他留意事項

- 「鹿児島6号」の炭そ病抵抗性は「さがほのか」と同程度の弱であり、育苗管理での防除徹底と親苗の健全苗確保（3年に1度の更新）を図る。育苗時の肥料切れによる芯止まりの発生防止で、育苗期に定期的な追肥を実施する。
- 多肥による芯止まり対策で、適正な基肥量（N:P:K6kg/10a）を目安に施肥設計する。
- 1花房5～10花の摘花を徹底する（小玉果、なり疲れ、芯止まり防止）。
- 高温期（3月～）の収穫は7、8分着色を目安とする（日持ち性の向上）。